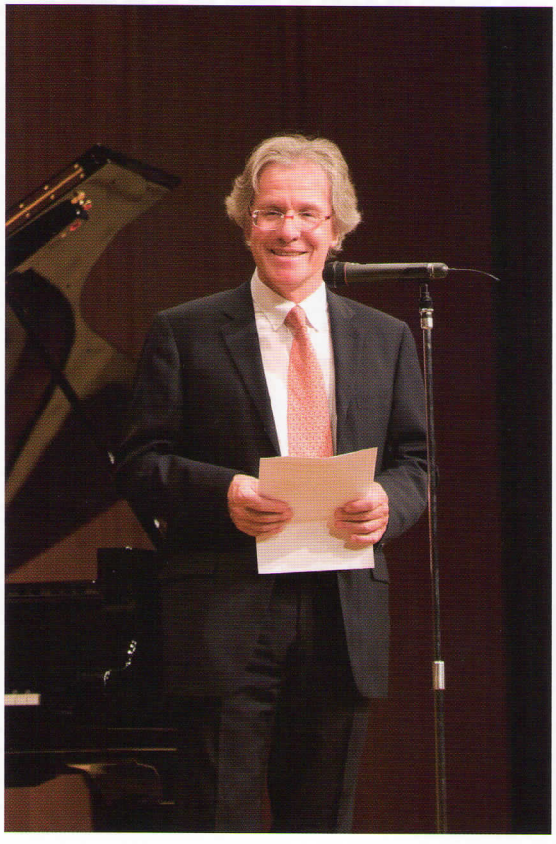
至高のピアノづくりに人生を捧げる

Paolo Fazioli

パオロ・ファツィオリ

黒く光るボディの側面にくっきりと記された「FAZIOLI」の文字。これが1981年にフランクフルトのミュージックメッセでお披露目され、衝撃的なデビューを飾った現代の名器である。このピアノを世に送り出した「ファツィオリ」の社長であるパオロ・ファツィオリさんが、日本での販売を手がけるピアノフォルティ株式会社設立記念イベントのために来日した。

SEVEN HILLS／取材・文　木内 海／写真
Text by SEVEN HILLS　Photograph by Kai Kiuchi



パオロ・ファツィオリ
1944年生まれ。ローマ大学で工学学士の学位を取得。ペサーロの音楽院ピアノ科卒業。家族が経営するオフィス家具の会社の経営に従事する一方、ローマ音楽院で作曲を学び、作曲の修士学位を取得。78年プロ用グランドピアノの構想を練り始め、80年に初めて試作品を製造する。81年ファツィオリ・ピアノフォルティ社設立。手造りにこだわったピアノの生産を始め、イノベーティブな手法で制作されたピアノは、数多くの著名な演奏家から高い評価を得る

ファツィオリさんは9歳のときにピアノを習い始めたのがきっかけで、すっかりピアノに魅せられた。弾くことも好きだったが、それよりもなぜこの黒い箱の中からこんな素敵な音が出るのか、そのメカニズムに強く興味を引かれたという。その好奇心に導かれて彼は工学博士になり、ピアノを製造する道を選んだ。

ピアノブランドの歴史を振り返れば、俗にピアノ製造御三家といわれるベーゼンドルファー1828年、スタインウェイ&サンズ1853年、ベヒシュタイン1853年が創業の年である。日本のヤマハでさえ1900年創業と100年以上の歴史を持つピアノブランドに対抗して、独自のブランドをつくったファツィオリさんに、勝算はあったのだろうか。

「会社をつくるにあたって私は4つの柱を立てました。1つ目はハイクオリティなグランドピアノだけを製造すること、2つ目はどこにも似ていない独自の音とブランドをつくること、3つ目は大量生産でなく1台1台丁寧かつ最先端の技術で製造すること、4つ目は音響への細かな研究を絶えず続けること、です」

15年前にファツィオリのピアノを初めて弾いたブーニンは、「ファツィオリを弾くと、芸術的な満足感と喜びでいっぱいになる」と絶賛。日本に初めて導入されたコンサートグランドピアノF308をサントリーホールで弾いた中村紘子さんは、「イメージした音楽が直接音になると感じました。余裕ができていろいろな遊びが出来ます。素晴らしいピアノはいろいろありますが、これほど弾きやすいピアノに出会ったのは初めてです」と感想を述べた。

記者発表会のステージ上のF308を試弾した人達は一様に驚き、目を輝かせた。それをにこやかに眺めるファツィオリさん。彼は自分を「仕事場でもピアノ、家に帰ってもピアノ。ピアノのことしか頭にない男」という。ベネチアの北約60kmの場所にある、サチーレ市の工場では、40名の職人が約3年かけて1台のピアノを製作する。ファツィオリは年間の生産台数が120台と稀少性が高いことでも知られる。

待望の日本デビューを果たしたファツィオリ。コンサート会場で「FAZIOLI」のピアノを見つけたら、その音色に愛と情熱を注いでいる男のことをちょっとだけ思い出してほしい。

材料にストラディヴァリがヴァイオリン用木材として選んだフィエンメ渓谷の赤トウヒを厳選して使用。100%手造りにこだわりながら、グランドピアノとコンサートピアノのみを製造している。また、アートケースピアノや斬新なデザインのピアノ、カスタムメイドのピアノなど特注も受けている。日本ではこの秋、ピアノフォルティ株式会社（代表取締役アレック・ワイル）と総代理店契約を結び発売を開始した
ピアノフォルティ株式会社
TEL 03-6809-3534
http://www.fazioli.co.jp/